

同窓会



下島 典子(旧姓 松沢)

(高校20回) 箕輪町木下在住

昨年10月3日 プリエキヤスレードにおいて同窓会総会が開催されました。
例年当日の懇親会は、還暦を迎える学年が当番幹事となることになっております。

昨年は、私たち20回生が当番でした。
実行委員会を重ねるごとに、クラスを超えて親しさが増した級委員が、受付でなつかしい先生、なつかしい友人たちをお迎えしました。
卒業以来42年ぶりの方も多く手を取り合って再会をよこびました。

総会のあと器楽クラブの演奏をお聴きしました。
「テストの直前で練習が不十分」と顧問の山内先生はおっしゃいましたが、「校歌」「コンクール曲」「いい日旅立ち」など懸命に演奏する姿はさわやかで、青春のすがすがしさに心うたれました。

知っている曲は、演奏に合わせて唄わせていただきましたが、最後になつかしい私たちの校歌(第二校歌)は、42年前に戻ったかのような大合唱。
久しぶりにこの校歌を思いきり唄うことができ感激いたしました。

演奏を終えて廊下に出た生徒さんたちに「とても良かったです」と声をかけると、実にはきはきと「ありがとうございます」と笑顔で応えて、懇親会場に入る私達を見送ってくれました。

今時の若者は・・・と、つい言ってしまいがちな、今時のおばちゃんの私たち。
とんでもないことでした。

聡明で礼儀正しくてさわやかな生徒さんたち。
これが伊那弥生ヶ丘高校の校風なのだ・・・と、しみじみ感じ入りました。
皆さん本当にありがとう。
若い同窓生にエールを送ります。

懇親会は、旧交をあたためるには、時間が足りない思いがいたしました。

60歳での同窓会。

一人 一人が自分なりの人生を歩いてきて今があり、今だからこそ認めあえる、わかりあえる年令になったのだと思います。

成績ではなく、職業でもなく、一人の人間として再会できた。

この時からまた新しい人間関係が作られ、今後の人生がさらに広がっていく。

うれしい予感がありました。

還暦を迎える学年が当番幹事になることの意義をしみじみと実感し、委員としてかかわれたことを感謝しております。

青春時代の3年間 当時は悩んでもいたはずですが、今では ただもう楽しくなつかしい思い出ばかりです。

伊那弥生ヶ丘高校が、いつまでも美しい名に恥じない学舎でありますようお願いさせていただきます。